

適切な設問回答法

義高 互

支援が必要な生徒にとってより良い質問や解答法は何か。

通級生徒を対象に 生徒の解答については13人 教師の指示については16人からチェックシートで意見を集めました。

質問項目は二つ

一番答えやすい解答方法は何か、と、一番わかりやすい教師の提示方法は何か、というものです。

まず一番答えやすい解答方法については選択で回答する選択問題が一番多かったのです。生徒としては楽にこたえられて、間違いの少ない選択問題のような回答が一番良かったと思います。たくさん話したいアスペルガーの傾向と思われる生徒はたくさん話し話したい、となりました。これについては生徒が楽しんで答えたい、という部分が多かったようで、本当に回答しやすいとなったか疑問な部分はありました。参考程度に見ていただければと思います。

教師の提示についてはそれより参考になると思われます。

特に知的に支援が必要な生徒は、長い文章や、長い言葉ではどこに注目してよいかわからない場合があるようです。

短い文章、単語など、すぐ見て参考になる一文や単語が近くに提示されていれば理解が進むようです。

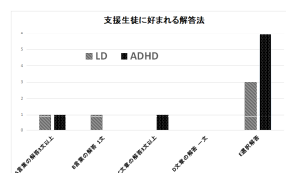
また最近良く言われる「教師が長く話しすぎない」という事にも通じるますが、短く簡潔に指

支援が必要な生徒にとって

- ・答えやすい解答方法
- ・わかりやすい提示方法



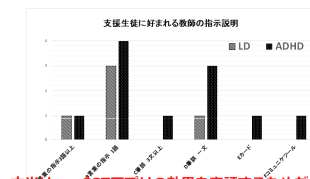
答えやすい 解答方法



短く簡潔な説明



わかりやすい提示法



本当は・・・SSTアプリの効果を実証するためだった・・・

示説明をする。一文または単語でキーワードがあればより良いようです。
簡潔で短い問屋説明が支援につながると思われます。

4 コミュニケーション向上のために
前出のK君やT君は、自分たちの描いた絵がアプリになっているので関心が高く、活用意欲が高まっている。それは意思伝達意欲が高まっていることである。
伝えられる、伝えたい、とコミュニケーションが進んでいくことは機器以前に望ましいことである。
さらに会員一人一人の交流の範囲も広がってきた。距離にして100キロメートルの隔たりにある会員達である。なかなか顔を合わせられない。しかし共に絵を描いたりできたアプリを検証したりして連絡を取り合っている。もともと意思伝達の課題があり、この会で制作に参加している会員も多い。人とのコミュニケーションが苦手な場合も多い。しかしそれでも制作をきっかけにして障がいを超え、地域を超えて交流できた事は喜ばしい。
支援アプリが交流やコミュニケーションを可能にしてくれるだけでなく、学校や地域を超えて、制作すること自体でも交流やコミュニケーションを深めてくれることを願う。



施設でタブレットを使い「伝えるくん」で意思表示する高齢者の方々↑

2 意思伝達支援ソフト「伝えるくん」
このソフトウェア(アプリ)は学習ソフトウェアという前提で制作され、利用されているが、本質はバリアフリー利用の意思伝達支援アプリである。
「伝えるくん」の用途はコミュニケーションが難しい場合に機器を使って絵カードや音声を出してコミュニケーションを支援することにある。絵カードは標準で広く使用されている、IS規格のケアマークフォントをベースにし、その中から選んで会員に描いてもらった。それをアプリに構成した「伝えるくん」は様々な障がいや配慮が必要な場合の対応に、支援機器として使用できるものとなっている。機器もバリアフリーで機器を選ばない。タブレットのフラッシュプレイヤーが動作すれば、持ち運びパソコンからタブレット、スマートフォンまで、操作もマウスから画面タッチと機種を選ばず利用できる。
そしてその広範囲なバリアフリーの発想はできたソフトの活用についてもあてはまる。ソフトウェアを使用してもらう人達も広い範囲である。学校の学習や学校生活で使用してもらうことが前提であったので、知的障がい、情緒障がい、聴覚障害、場面緘黙(場面によって話せなくなる状態)など様々な人達のコミュニケーションツールとして活用されている。国語などの教科学習の場面でも、発表や意思伝達支援に活用され効果が高い。
学校のみならず、施設や老人ホームまで利用してもらっている。小中学校、幼稚園から、福祉施設や高齢者まで意思伝達に支援が必要な人たちに広く利用、活用されている。
実際にいくつか挙げたい。



← アプリで出せる絵になる制作中のケアマークフォント

END